



何か落ち着かない世の中になった。国の内も外も混迷の度合いを深め、あふれ返る情報の洪水の中で、それぞれが自分のことしか考えなくなり、他人の迷惑を顧みなくなった。スマホかなにか知らないけれど、脇目もふらず操作を続けている老若男女を見ると、その思いはますます強くなる。たとえば、電車やバスで席が空くと、高齢者が居ようと居まいとおかまいなしにさっと座り、またスマホをいじり回す。交差点や駅の階段・通路等で先に避けるのは、操作をしてない方の人たちである。その隙に、上に立つ者は、何でもできると勘違いをし勝手なことをやり始めている。それに対する（小生を含む）みんなは傍観者・評論家と化し、WEB等で距離を置いて呟くだけ。そんなふうになってしまった。

そんな中であって久しぶりにスカッとしたニュースが今回のト杯初優勝、33年ぶりのユ杯準優勝である。女子もすごいが特に男子のそれは、準決勝中国戦での完勝を経てマレーシアと対決。第三シングルスを務めファイナルの末勝利をおさめたのが、我がJEF事務局長上田敏之氏のご子息拓馬君。（女子シングルスコーチの佐藤翔治氏は監事佐藤正氏のご子息）。実にメダタイことである。そうなるとうとうおかないのがマスコミ。イケメンだ、スマッシュ王子だとかなりのフィーバー。TV等への出演もかなりの回数に上る。しかし、そこで偉いのは、決して天狗になっていない点。祝賀会の席上で男女とも楽勝ではなかった由を朴柱奉ヘッドコーチは語り、選手たちも「チーム全体で取った優勝」「このチームでプレー出来てよかった」云々との謙虚な発言。そして次の大会や東京オリンピックへ向けてのさらなる精進の表明。ほんとうに好い雰囲気である。

5月30日（金）朝の日テレ「スッキリ!!」には上田・桃田の両選手と舩田圭太コーチ、陣内貴美子氏が生出演したが、その中で印象に残ったのが舩田コーチお手製の△の話。電気釜・お米持ち込みという話は他の競技でも時に聞く話であるが、選手のコンディションを考えてのお握り作りの話である。画面にはラップに包まれた40個程のそれが映っていたが、小生はいたく感動、お腹が鳴った。あの大選手舩田さんが△を握るなんて、夢にも思っていなかっただけに、うーん、そこまでやるか、スゴイ！という驚きであった。祝勝会会場で見せた舩田氏の気配りのすばらしさからすると十分あり得る話である。まさに同氏は技術・戦術指導だけにとどまらない名コーチである。（ちなみに小生はかつて舩田選手の試合で審判を務めたことがある）。

今、この夏の第53回JEF東京大会に向けて準備が進んでいる。小生はただ上に乗っているだけであるが、運営委員・実行委員をはじめとする方々の働きぶりは実に大変なものがある。会長を拝命して初めての大会は栃木（宇都宮）であったが、昨年宮崎に至るまで、如何に多くの方々がお身を粉にして働いて下さっていたかを今更ながらに実感し、あらためて感謝の意を捧げる次第である。今度のト杯・ユ杯の快挙も、選手は勿論コーチ、△、トレーナーらが一丸となったのものであった。選手の勝利は裏方の勝利でもある。オグシオブームあたりからの世間の関心度の高まり、（公財）日本バドミントン協会の周到なジュニア育成、ナショナル・トレセンという場の存在、その他もろもろの支えがあつてのことである。これを機にバドミントンをやりたいという児童・生徒・学生が急激に増えると思われる。JEF所属の教職員の皆様方は、一流選手を養成されるとともに、そこまでは行かなくともバドミントンが好きという彼ら彼女たちのことも忘れずに（体罰無しの）指導をされ、本連盟を盛り上げて行ってくださるよう切にお願い申し上げる次第である。

目 次

巻頭言

祝！トマス杯優勝・ユーパー杯準優勝

第52回大会 研修会報告

第3回全日本教育系学生選手権大会

平成25年度全日本総合選手権大会レポート